

日頃は徳島県遺族会に対しまして、格別のご支援とご協力をいただき、改めまして心より厚くお礼申し上げます。

明けましておめでとうございます。

新年を迎え、ご遺族の皆様におかれでは、健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。



新年のご挨拶

一般財団法人徳島県遺族会 会長

坂千代  
克彦

発行所  
徳島市雜賀町  
東開21番地1  
一般財団法人  
**徳島県遺族会**  
TEL(088)636-3212  
FAX(088)636-3213  
<http://izokukai.jp/>  
発行責任者  
坂千代 克彦  
印 刷  
グランド印刷(株)

県内各地区の役員の方々、会員の皆様のご理解とご協力に改めて敬意を表する次第であります。

また、事業の実施にあたっては、青年部の皆さんのが積極的に参画しておりますし、組織の次世代継承に向けてより一層前進したと思つております。

現在、戦没者遺児の平均年齢は八十年代半ばであると言われております。

高齢化が進む本会ではありますが、「英靈の顕彰」「遺族の処遇改善」を根幹とし、「組織の継承」「戦没者記念館の活動促進」「次世代への語り継ぎ」を加えた五つの指標のもと、継続して活動を進めて参りたいと思います。

特に、昨年四月から十年間の継続が決定した特別弔慰金制度の改善をはじめとする遺族の処遇に関する要望活動も引き続き実施して参ります。

また、我が国の遺族会組織の存続のため、令和六年度より日本遺族会が中心となつて事業を実施している「平和の語り部事業」については、全国の遺族会組織などと連携を強化しながら取り組みを進めて参ります。

を強化しながら取り組みを進めて参ります。  
そして、これらの事業展開のためには孫・  
曾孫世代の規模拡大が必須であり、次代を  
託す青年部活動の更なる活性化につきまし  
て支援をして参ります。

ご遺族の皆様におかれでは、引き続きのご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、ご遺族の皆様にとりまして、本年がより良き年でありますようご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

謹賀新年		令和八年元旦											
德島県遺族会		德島県護国神社											
副会長		副会長											
坂千代		坂千代											
上浦		上浦											
会長		会長											
克彦		克彦											
喜代志		喜代志											
高志		高志											
光普		光普											
一郎		一郎											
之子		之子											
司子		司子											
幸一		幸一											
和健		和健											
敏勢		敏勢											
重郎		重郎											
貴之		貴之											
彦子		彦子											
弘雄		弘雄											
彦雄		彦雄											
樹武		樹武											
和男		和男											
喜巳		喜巳											
眞智子		眞智子											
祐介		祐介											
久吉		久吉											
本藤		本藤											
中西		中西											
西祐		西祐											
中林		中林											
佐原		佐原											
久宮		久宮											
久木		久木											
保木		保木											
藤井		藤井											
道友		道友											
正久		正久											
中瀬		中瀬											
川木		川木											
木保		木保											
瀬戸		瀬戸											
藤野		藤野											
瀬林		瀬林											
佐々木		佐々木											
久保		久保											
大久保		大久保											
赤野		赤野											
古木		古木											
緒本		緒本											
大林		大林											
緒古		緒古											
佐々木		佐々木											
瀬赤		瀬赤											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											
瀬佐		瀬佐											

## 新年のご挨拶

昭和百年「記憶の継承」を普遍的課題へ

「平和の語り部」の先頭に立つ決意を胸に

一般財団法人日本遺族会 会長 水落敏栄



ご遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えのことと拝察いたしました。日本遺族会会长として、年頭所感を表明いたしました。

終戦八十年の節目となつた昨年は、「記憶の継承」が社会的課題として各方面で取り上げられ、遺族会の語り部も大きく人を越えました。中でも、学校での講話は昨年度の二倍以上となる約五百〇〇回余、聴講者は十万人を越えました。また、聴講者は四万人を越えました。ご協力いただき、全国のご遺族皆さまでした。

こうした活動が高く評価され、令和八年度予算は、補正・本予算あわせ、二・六億円と規格外の大幅予算増が決定されました。この大きなうねりを令和八年度に確固たるものに出来るか、そのために戦争の記憶の継承に応えるのは遺族会と示さなければなりません。何より戦没者遺族こそが語り続けなければ、かけがえのない父、馬車馬のごとく働いた母、生涯癒えることのない傷を抱え歩んだ我々遺児の存在をも、この歴史上からついえ去る日は眼前に迫っています。戦争の記憶が消滅した先に、平和が維持できるとは到底思えません。

令和八年は昭和元年から起算して満百年を迎えることから、国は官民をあげた「昭和百年施策」に取組むとしています。主な施策の具体例に掲げられる「平和の語り部事業」にいかに寄与できるか、本会にその真価が問われています。

この上は、多くの語り部活動者の育成が急務です。「伝える、繋ぐ」をテーマとし、まずは、体験者である遺族が次世代青年部へ伝え、学び、共に後世代へ記憶を繋ぎましょう。同時に、遺骨収集、慰靈碑の維持管理、遺留品返還等、あらゆる活動を通して、平和を語り継ぐ意識を醸成し、機運を高めることが重要です。

昭和百年、「平和の語り部」を通して、記憶の継承を普遍的課題と提起し、その先頭に立つ決意を新たに、戦後百年まで活動してまいりました。

（日）県内各地よりご遺族約四百名が参列し、徳島県護国神社例大祭が厳粛かつ盛大裡に斎行された。

## 令和七年度徳島県護国神社例大祭並びに終戦八十年臨時奉幣大祭が斎行される



祭典は、高木謙至徳島県隊友会会長の開始の言葉に始まり、参列者全員

阿部和英護国神社奉賛会会長、村上耕司徳島県副知事（徳島県知事代理）、坂千代克彦徳島県遺族会会長から祭文が奏上された。

また、今年は戦後八十年にあたり、天皇陛下から賜つた幣帛料をご神前に奉

献申し上げる

臨時奉幣大祭

が併せて斎行された。

当日は、県選出の国会議員をはじめ、県議会・民間団体など関係各方面から多くの来賓をお迎えし、県内各地の遺族代表の方々とど



による国歌斉唱の後に、藤本久吉宮司が祝詞を奏上、献幣使により祭詞が奏上された。

続いて、大祭委員長の藤本久吉宮司が祝詞を奏上、献幣使により祭詞が奏上された。

もに玉串を捧げて拝礼、ご祭神に対し感謝と慰靈の誠を捧げ世界の恒久平和を祈念した。

## 日本遺族会

### 「中国・四国ブロック会議・平和の語り部大会」松江市で開催



令和七年九月二十七（土）から二十八日（日）の日程で、島根県松江市において日本遺族会の「第四ブロック（中国・四国）会議・平和の語り部大会」が開催され、本会からは坂千代会長、濱副会長兼女性部長、山本副会長兼青年部長が出席しました。

今回は、通常のブロック会議とあわせ、終戦八十周年記念事業として「平和の語り部大会」を開催しました。

開会にあたり水落会長からは、「今後の遺族会活動の核と

一日目のブロック会議では、日本遺族会から「平和の語り部事業の今後の展開」「国内民間建立慰靈碑の実態調査」などに関する説明があつた後に、各県からの語り部事業の進捗状況、「慰靈碑の現状」の報告と討議を行いました。

二日目は、「平和の語り部大会」が実施され、島根県支部・高知県支部青年部から平和の語り部活動に関する状況報告があり、その後、各県支部の代表者による朗読劇「出征兵士を見送る家族の物語」の実演を行い、終了後に「学校での語り部活動に関する取り組み」、「語り部人材育成の課題」などについて意見交換を行いました。

なる平和の語り部事業は、令和八年度の厚生労働省概算要求で前年比二・六倍の二億六千万円となつていて、この予算の獲得に向け全力で取り組む」と挨拶がありました。

一日目のブロック会議では、日本遺族会から「平和の語り部事業の今後の展開」「国内民間建立慰靈碑の実態調査」などに関する説明があつた後に、各県からの語り部事業の進捗状況、「慰靈碑の現状」の報告と討議を行いました。

一日目のブロック会議では、日本遺族会から「平和の語り部事業の今後の展開」「国内民間建立慰靈碑の実態調査」などに関する説明があつた後に、各県からの語り部事業の進捗状況、「慰靈碑の現状」の報告と討議を行いました。



### 第八十回全国戦没者遺族大会の開催

会長、緒方副会長が参加しました。

また、来賓として鈴木自由民主党幹事長をはじめ多数の自民党国会議員に御臨席いただきました。

大会では、実現を期する重点事項として、「平和の語り部事業の拡充強化」、「国内民間建立戦没者慰靈碑の永続的な維持管理等への支援」等について決議され、大会終了後に本会役員は衆参の議員会館に赴き、県選出国會議員等に陳情活動を行いました。

後も要望事項の実現に向け、全国の遺族会と連携しながら運動を継続して参ります。

### 語り部事業のご案内（奇数月に開催）

#### ●第103回 1月10日（土）13:30～14:30 戦没者記念館

「満州開拓団少年兵が見たもの」—戦争の栄華と衰退の象徴—

福池 葵 氏（鳴門市）鳴門中学3年生

福池様には、曾祖母の実家で見つけた兵隊盃・兵隊徳利を自由研究で調べたこと、曾祖父のシベリア抑留での体験などを語っていただきます。

#### ●第104回 3月14日（土）13:30～14:30 戦没者記念館

「知覧から出撃した第45振武隊」 山本 真由美 氏（鳴門市）

山本様は、徳島県遺族会青年部に所属しています。

ある本、そしてある人の出会いから知ることができた「第45振武隊」の出撃までの経緯などを語っていました

## 語り部事業講演要旨

## ●第101回語り部事業 9月13日(土)

「戦争は あったんだ。」

海部郡牟岐町 中川 広之 氏



私が戦争ことを語る時には、資料の目次に記載のように「テクノロジーに関する戦争」、「映画の中での戦争」、「教育現場での戦争」という3つの分野について話をしています。

まず、目次の下に母親が子供4人を連れて歩く漫画を挿入していますが、これは有名な漫画家の赤塚不二夫さんの作品です。前から2番目が赤塚さん自身です。

赤塚さんは、中国の万里の長城が見える所で生まれ、終戦間際に引き揚げてまいりました。

この漫画は、引き揚げた時の記憶を書いたものですが、母親は、大きなリュックを背負い、両手には大きなバックを持ち、子供達は離れないように手をしっかりと繋ぎ、歩けない赤ちゃんは、まだ子供の姉が背負っています。今の時代の我々には、こんな苦労は想像できません。

赤塚さんは、国内に引き揚げてきた時に「日本は箱庭のように美しかった」と、後に語っています。赤塚さんが戦争中に亡くなっていたら、「おそ松くん」や「天才バカボン」などの漫画も世に生まれなかつたのです。

それでは、「テクノロジーに関する戦争」についてお話をします。

まず、核兵器についてですが、アメリカは世界で初めて核兵器を開発し、日本は世界で唯一の被爆国です。このことは、日本人ならほとんどの人がご存知だと思うのですが、実は、日本やドイツも当時は科学者たちが核開発をしていました。

日本の原爆開発で著書があるのですが、「マッチ箱1箱分の原料があれば、都市を破壊することができる。」ということが書かれています。一方ドイツは「日本より一歩遅れていた」と書いてあります。私は、核兵器は人類を滅ぼしてしまうので、できる限りゼロに近づくように世界が知恵を絞って努力すべきだと思っております。

次に当時のアメリカ軍の兵器すごい技術だと思ったのは、レーダー付き対空砲弾です。

これは何かというと、信管の先からレーダーを発射しまして直接当たらなくて、レーダーによって砲弾が破裂する。そして爆風と破片で飛行機を落とすことができるんです。正にエレクトロニクスが戦争をしていました。その点、日本はかなり遅れていたことは事実です。

日本のゼロ戦は軽い飛行機で重量は約2トンしかなかったんです。乗用車1台分の重さの戦闘機だったのです。昔ながらの日本人の考えで「柔よく剛を制す」や「弁慶に対する牛若丸」になるのでしょうか、とにかく軽量の飛行機でした。

対するアメリカ軍のグラマンは非常に重くてゼロ戦の2倍ぐらいあるとは思いますが、強度を保つための厚さを確保するため、重くなつたようです。また、燃料タンクにかなり厚いゴムを巻いて燃料タンクを守り、パイロットの後ろには分厚い装甲板を敷きまして、帰還できるようにパイロットを守ることに重きを置いていたんです。

対する日本の飛行機は、そんな装備はなく軽いだけの飛行機でした。

そして、日本は戦争に負けましたが、戦後に飛行機を作っていた技術者が車を作るようになります。第一期ホンダF1総監督の中村良夫さんです。本田技研工業は、1965年(昭和40年)にF1に参戦しております。中村さんはゼロ戦設計に携わっており、素晴らしい飛行機野郎でした。

日本と同じように戦争に負けたドイツ・イタリアでも飛行機を作っていた技術者が車を作るようになった。その後、両国では世界的に有名な車両が次々と開発されました。

次に船のテクノロジー・流体力学の世界ですが、戦艦大和にも採用されたバルバスバウ(球状船首)です。これは何かというと、この船首があることで水の抵抗を大きく減らすことができます。これにより、幅40mもある戦艦大和が時速50kmぐらいで航行できるんです。

次に戦艦大和の生還者に八杉康夫さんという方がいらっしゃいます。

八杉さんは2020年にお亡くなりになりましたが、晩年まで大和乗組員の生存者として語り部をしていました。

戦後、近所の子どもたちに「戦艦大和に乗ってた人はみんな死んだはずじゃないの?」そう言われるのが一番辛かったと、語っております。

大和は注排水システムを駆使し、魚雷が当たって浸水し斜めになつても反対側に海水を入れて立て直し、進んで行つた。

八杉さんは、傾いてもまた元に戻つて進んで行く。「大和は沈まん」と、後にそう語っています。

ただ、アメリカも巧妙で左舷に魚雷を集中させて、注排水システムでは回復できないようにするわけです。当時の証言では伝達網が寸断され、「片側の注水が行われなかつた」という後の証言があります。

同様に、戦艦武蔵も左舷に傾き航行不能になりました。船が傾くとどうなるかというと、真っ直ぐに進まず、極端な場合、同じところをグルグル回つてしまふんです。武蔵を置いていかざるを得ない連合艦隊の他の戦艦はきっと悔しかつたはずです。

戦艦大和の最後ですが、「派手に撃沈した」ということです。

八杉さんの証言では、沈没して暫くすると空から破片が降ってきた。大和の真っ赤に焼けた破片が落ちてきたんです。それで周りの浮いていた搭乗員たちの多くがそれで命を落とした。

上空から落ちてきた焼けた鉄片で多くの人が命を落とした。雪風に救われる前に、そう証言しております。

私は、子供の頃に戦艦大和は、アニメの宇宙戦艦ヤマトのように水底に眠っていると思ってましたが、実際は真っ二つだったんです。

次に、「映画の中での戦争」についてお話をします。

戦争関連の映画は、真珠湾攻撃や沖縄戦をはじめいろんな作品があります。

(いくつかの作品のあらすじについて説明)

今回紹介したもの以外にも多数の作品がありますが、先ずは、いろんな作品を見て「戦争は あったんだ。」ということを感じてもらえたたらと思います。また、事実を確認するため書籍などで調べることをお勧めします。

次に、「教育現場での戦争」についてお話をします。

私達が子どもの頃に教科書に載っていた内容が、現在では削除されたものが幾つかあります。

昔に比べ、人権に対する配慮が重視されるような時代になったからかもしれません。私はそのようなものを見て、体験はしていませんが戦争の悲惨さを感じました。

そして、広島の原爆関連の写真で題名が「焼き場に立つ少年」というのがあります。私が、最初に見た小学校の頃の題名は「親の火葬を待っている少年」と書かれていたと記憶しています。

このように、教育現場では戦争に関する情報がかなり見直されているようです。

ここで、「靈峰に墜ちたB-29」という番組の一部を御覧ください。(VTR視聴)

B-29と言えば、日本全国の都市に焼夷弾の雨を降らせ、多くの命を奪ったアメリカの軍用機です。中には、日本の対空砲火や故障により墜落したものが幾つかありました。

映像は、和歌山県田辺市龍神村に墜落したのですが、搭乗員11人のうち7人が墜落により亡くなり、残り4人のうち3人が処刑され、1人が不明となっています。

当時は、アメリカ兵は怖い存在だったと思いますが、地元住民はお腹を空かせた兵士たちに食料を与えるなどのおもてなしをしたようです。憎き敵であるにも関わらず、まさに「武士の情け」でした。また、搭乗兵を供養するため、慰霊碑を建立し、慰霊祭を毎年実施しています。

このようなことがある一方、全国で墜落し捕虜となった多くのアメリカ兵が母国に帰ることなく処刑されました。

どうしても、日本人がひどい目にあつていることがクローズアップされがちですが、戦争とは日頃の常識が通用しない世界であり、それぞれの場面で悲惨な出来事が起こつてしまつます。

それが、戦争なんです。

「戦争は あったんだ。」

改めて、この事実を知つていただきたいと思います。ご清聴いただきありがとうございました。

## 語り部事業講演要旨

## ●第102回語り部事業 11月8日（土）

## 「戦後の暮らしの苦労について」

海部郡美波町 新開 悅博 氏



美波町由岐地区で遺族会会長を務めております新開でございます。

戦後生まれて戦時中のことは知らないのですが、本日は祖父母や両親から聞いたこと、子供の頃の体験談などをお話しさせていただきます。

私の家は、志和岐地区の急な山にある農家でして、山の間から太平洋の景色を望むことができる地域でした。

山の棚田で米の栽培などをしており、作付面積は一町五反ほど、牛は3頭・鶏は15羽ぐらいおりました。

なぜ、牛が3頭もいたのかと言いますと、山の棚田には田んぼの中に石がいっぱいありますし、石を牛が踏んだ場合に休ませる必要がありました。そのことから3頭の牛を飼って交代で農作業に使っていたわけです。鶏は産んだ卵を家庭用に消費していたようですが、肉が食べたいときには捌いて「鶏のすき焼き」にしていました。現在は4~5反ぐらいの田で耕作をしているので、牛・鶏も飼っておりません。

次に、戦死した母の兄についてお話をします。

母の兄である新開實は、昭和17年4月14日に徳島歩兵隊第28隊に入隊し、昭和19年3月に北朝鮮に派遣されました。その後病気を患い、中国河北省北京第151病院において25歳の若さで病死しましたと昭和20年9月25日に徳島歩兵隊から連絡を受けました。

伯父の死を聞いた祖父と祖母は一晩中泣き続け、2・3日途方にくれたようです。

伯父には妻と子どもが1人いたのですが、伯父の妻は私の母に「自分の子として育ててほしい」と言って、伯父の子供を預け実家に帰ったそうです。

私の母は、徳島の洋裁学校に汽車で通っていました。ある時、那賀川の鉄橋の橋の上で汽車が止まつたら、アメリカの飛行機が爆撃してきました。2機か3機か襲ってきたと聞いております。

多くの人が亡くなりましたが、母は汽車の陰に隠れ、かろうじて助かったそうです。

その時は、もう終わりだと思ったそうで、後に「あれだけえらい目にあったことはない」とよく話をしていました。

伯父の死により実家には男子がいなくなり、母が養子をもらって後を継ぐということになったそうです。後に大阪の郵便局で勤務していた男性を農家の我が家に養子として迎えました。それが私の父です。父は、戦争中は通信兵としてラバウルに出兵・復員したそうで、93歳で亡くなるまで、我が家を守ってくれました。母も96歳で亡くなっています。

今回の語り部を行なうにあたり、私の娘が「父さん、戦争の語り部についてA.I.に聞いてみる」と言って調べてくれました。

その回答は、「戦争は決していいわけない、苦労は一生続きます。戦後80年を過ぎた今、戦争の記憶と私たちが変わるべきことについてお話をさせていただきます。80年前日本が第二次世界大戦という未曾有の戦争を終えました。多くの人が命を落とし、多くの都市が焼け野原となり、日常生活が壊され家族が生き別れ、あの戦争で失われたのは命だけではありません。子どもの未来、静かな暮らし、人と人との信頼、そうしたかけがえのないものが一瞬にして失われたのです。」というような回答でした。

私は、戦争を直接体験した世代ではありませんが、語り継ぐ必要性を強く感じています。なぜなら、記憶は語らなければやがて風化して消えてしまうからです。そして再び、同じ過ちを繰り返すことになるからです。

私達の先輩は、語り部として自分の痛みを語ることで、未来の命を守ろうとしてきました。爆撃を受けて家族を失った悲しみ、戦地での体験、極限の恐怖など、どれも想像を絶する体験ですが、いまその語り部の多くの人が高齢となり、語り部を続けることが難しくなっています。

これからは、次世代の人達の出番です。「戦争の悲惨さ」や「和平の尊さ」を両親や先輩たちから聞いた者として、次の世代に引き継いでいくことが非常に重要だと思っております。

私の父もラバウルに通信兵として出兵し、通信機をかかえて10

人位の仲間と野や山を越え、谷を渡りながら回っていたそうです。ある時、山の高台で日本兵の死体を見つけ「大事な遺品は親元に届けてほしい」と連隊長に預けたことを父親が話してくれました。

通信兵の仲間は、「こんな見知らぬ中山で死んでいた人、親は可哀そうと思うだろうな・泣くだろうな・泣くどころでないだろうな」と口々に言いながら、通信機を持って野や山を越え目的地に向かって進んだそうです。

次に、戦後の暮らしにおける苦労、特に食糧難についてお話をさせていただきます。

私の暮らしていた志和岐地区も食糧難が目の前に来ていたそうです。

その時に食糧難を救ってくれたのが、白イモ（さつまいも：農林1号）です。

現代のイモは、鳴門金時・紫イモ・安納芋など新しい種類が開発されていますが、当時は「白いも」を主食の代用として、「お米と一緒に炊いて雑炊にする」・「茹でて切干にして子供のおやつにする」等によって腹を持たせていたということです。

このイモを作っていたのが志和岐地区の山でした。

また、イモのツルや葉は牛の餌となるので、小学校の頃は荷車にツルを一杯積んで運び、乾燥させた後に切ってサイロに保存していました。

イモもツルも食べるので、捨てるところはありません。

全国で白いものなどを甘藷とも呼んでいました。

私は全国で食べられ当時の食糧難の救世主であった「農林1号」を復活したいと考え、九州などで栽培しているとの情報があり探しましたが、残念ながら手に入りませんでした。

もし、白いもの栽培情報がありましたら私に御連絡ください。

このイモは絶対に無くしてはならない。「雑炊」「乾パン」にして食べ、当時の人々が飢えを凌いできた「白いも」ですので、このイモを次世代に残したいと思っています。

次に私の家にある徳島県天然記念物の「ヤマモモの古木」についてお話をします。

平成2年に大阪で花の博覧会が開催され、読売新聞社が全国で有名な木（古木）を名木100選として1冊の本にまとめ発行しました。

読売新聞社からは、博覧会に徳島から「加茂の大クス」、「鳴門の根上り松」、「由岐のヤマモモ」を展示して認定証をお渡ししたいとのことでした。

また、徳島県では私の家のヤマモモを文化財に指定する動きがあって、いろんな調査をしておりました。その調査で農家の皆さんから過去の話を聞いた時、戦前から戦後の電気やガスのない時代に、木を切って燃料として使ったことから、民間の土地に大きな木は残っていないとのことでした。残念ですが、貴重な文化遺産が伐採されて無くなってしまったわけです。一方、お寺や神社の古木は7~8割は残っていたそうです。個人の木は、当時の生活を支えるため切らざるを得なかつたということです。

由岐のヤマモモの木は昭和62年12月4日に徳島県天然記念物に指定されました。

この木は、樹齢の推定400年から500年、高さ20m、幹回り4.6m、地上13mあたりから4つに分枝して見事な樹形を作り、樹勢も旺盛で毎年6月下旬には実をつけています。

ヤマモモは日本に無かった植物です。昔、インドネシアのあたりから黒潮に乗って流れてきたヤマモモの実が海岸に打ちあがり、動物を介して海岸線の山で育ったのだと思います。

だから、日本でヤマモモの木が生えているのは、黒潮の流れる太平洋側の地域に多く生息しております。

私が小学生の頃、祖母から聞いた話では戦前から戦後に嫁に行くときは、果物の苗木を持って行き、嫁ぎ先で実がなればそれを売って生活の足しにしていたそうです。植える場所があったからという単純な話ではなく、苦しい生活の事情があったのだと祖母から聞かされました。だからヤマモモは大事にしないといけないと思っています。

今では、全国の古木巡りをする若者がおり、オートバイや自動車で私の家のヤマモモを見に来ています。中には外国の方が訪ることもあり、いろんな人たちと交流を図ることができます。以上で私の話を終わらせていただきます。ありがとうございました。



## 第五十八回沖縄「徳島の塔」慰霊巡拝

（土）から十六日（日）の日程で、第五十八回目となる沖縄への慰霊巡拝が実施されました。

本会からは、坂千代克彦会長、緒方理事（女性部副部長）のほか青年部員三名、会員等三名が参

加しました。また、徳島県から事務局を含め総勢十一名が参加しました。

十五日午後に那覇空港に到着後、まず沖縄県護国神社で正式参拝を行

い、御靈の御安泰と感謝を捧げた後には、疎開船として航行中に攻撃を受け多くの民間人や児童が犠牲となつた対馬丸の記念館を訪ねました。

翌十六日は、午前九時三十分から糸満市摩文仁ハンタ原「徳島の塔」前広場において慰霊祭を斎行しました。

祭典には、沖縄県庁、沖縄県議会、糸満市、沖縄県平和祈念財団、沖縄県子係長が参加され、徳島県から事務局を含め総勢十一名が参加しました。

十五日午後に那覇空港に到着後、まず沖縄県護国神社で正式参拝を行

い、御靈の御安泰と感謝を捧げた後には、疎開

船として航行中に攻撃を受け多くの民間人や児童が犠牲となつた対馬丸の記念館を訪ねました。

祭典終了後には、徳島からの参列者全員で平和の碑、旧海軍司令部壕を

巡つて御英靈を偲ぶとともに、心から感謝の誠を捧げました。

来年度も沖縄での慰霊祭を斎行し、県内ご遺族にできるだけ多く御参加いただけるよう計画をし

## 日本遺族会

### 令和7年度「女性部研修会」の開催



（土）～七日（日）の二日間、九段会館テラスにおいて、日本遺族会令和7年度「女性部研修会」が開催された。

研修会は、開会式の後

に女性部遺児の講話

が参加しました。

祭典には、沖縄県庁、沖縄県議会、糸満市、沖縄県平和祈念財団、沖縄県遺族連合会、沖縄県

人会の皆様にも御臨席い

ただき、総勢二十八名で

厳粛に執り行われまし

た。

祭典は参列者全員の黙

祷に始まり、沖縄県観音

寺元山善弘住職の読経と

続き、祭主坂千代会長に

よる祭文の奏上、その後、

徳島県知事、徳島県議会

議長の慰霊の言葉が述べ

られました。続いて、参

列者一人ひとりが焼香を

行い、最後に坂千代会長に

の謝辞をもつて祭典は終

了しました。

祭典終了後には、徳島

からの参列者全員で平和

の碑、旧海軍司令部壕を

巡つて御英靈を偲ぶとと

もに、心から感謝の誠を

捧げました。

祭典終了後には、徳島

からの参列者全員で平和

の碑、旧海軍司令部壕を

巡つて御英靈を偲ぶとと

もに、心から感謝の

## 地方だより

### 令和7年度 市町村戦没者追悼式の開催

令和7年度の戦没者追悼式が各地域において執り行われ、当日は県遺族会役員が参列しました。



勝浦町戦没者追悼式：9月24日



石井町戦没者追悼式：10月8日



北島町戦没者追悼式：11月8日



藍住町戦没者追悼式：11月11日



神山町戦没者追悼式：11月14日



吉野川市戦没者追悼式：11月15日

### 戦没者記念館だより — 写真展示数 8,216柱 (R7.12.20現在) —

#### ▶ 来館者のお声

- ・私は自衛官です。長く勤務するうち、先人達の苦労や努力によって平和と安全があるというのを強く感じるようになりました。今、我が国周辺の安全保障環境は戦後最も厳しいと言われています。こうした中、今を新たな戦前としないため、我々は努力をせねばなりません。命をしてこの国を護り、愛し抜いた方々にどうか安らに見守っていただき、我が国が引き続き平和で安全な国として栄え、子孫に受け継いでいけるよう心から願っています。徳島県出身の郷土の皆様のお顔を見て、自分のやるべき事、覚悟が決まったような気がします。素晴らしい展示に感謝いたします。ありがとうございました。(広島県：50代・男性)
- ・長崎で生まれ戦争の話をよく耳にしながら育ちました。そのためこのような資料館が気になり赴くことがあります。正直、沢山の戦死者の方々の写真は辛く、悲しくて直視することができません。日本人として知っておくべきことなのできました。(愛媛県：50代・女性)
- ・今年戦後80年ということもあり、色々な資料館に来ています。戦争で亡くなった方に感謝しながら生活します。(香川県：40代・女性)
- ・夫婦で英霊への敬意と感謝の思いをお伝えするためにきました。皆様のおかげで今日の私達があるとの深い報恩感謝をご祈念いたします。本当にありがとうございました。(40代・男性)
- ・こちらの記念館には、入らないと後悔すると思い足を踏み入れました。広島の記念館では見ることのできない、実際に戦死された方々のお顔があり今もここで生きているんだと感じました。一人一人のお顔を見ながら残された遺族や私の家族の顔も浮かんだ。仕事やプライベートで色々大変なこともあるけど、今日という日を精一杯生きようと思わせてくれた。ありがとうございました。(20代・女性)

# お慶び

令和7年12月1日 受賞

## 厚生労働大臣表彰



徳島県遺族会会长  
海部郡遺族連合会会長

**坂千代 克彦氏**



松茂町遺族会副会长

**井上忠明氏**



元美馬市遺族会副会长  
元美馬市遺族会美馬支部会長

**長江廣子氏**

多年にわたり遺族会の発展と、会員の福祉の向上に多大なるご貢献をいただきました。  
心よりお慶びとお礼を申し上げます。

## 百歳のお慶び

### 吉田 幸治さん（吉野川市）



吉野川市山川町山路の吉田幸治さんが令和7年11月13日に、めでたく百歳の誕生日を迎えるました。

徳島県遺族会会长からお預かりした祝状と記念品を贈呈させていただきました。

吉田さんは、8人兄弟の次男として生まれ、兄の昌雄さんは昭和19年にビルマで戦死されています。

本人も18歳で出征し、上海市で終戦を迎え、帰国後29歳で結婚し、一男二女を育てました。

「無事に戦地から帰国し今日まで生活が出来た上に、祝状と記念品をいただき感謝感激です」と大変喜んで受け取ってくれました。

戦後は、郵政省に勤められ、地元の郵便局長として地域のお世話をしていただき、退職後は短歌が趣味で「山川うたう人」に入会され、身の周りのことを題材にして詠むことを楽しんでおり、現在は長男家族と暮らしています。

また、吉田さんは令和の大嘗祭に向けた大麻の織物「龜服（あらたえ）」の製作に伝承者として平成に引き継ぎ携わりました。

今後もお元気で活躍されることを御祈念申し上げます。

山瀬地区遺族会会长 大栗 重昭



**上勝町立上勝中学校で  
「平和の語り部授業」を実施**

十月七日（火）に上勝町立上勝中学校において、二年生の生徒を対象に「平和の語り部授業」を実施しました。

この授業は、今年度から日本遺族会が全国の学校からの要請により各県支部の語り部を派遣しているもので、今回は、濱県女性部長が授業を実施しました。

当日の授業では、遺族会事務局から「先の大戦」や「沖縄戦」の概要を説明した後、濱部長が「きちんと沖縄戦」の紙芝居の上演と沖縄戦に関する講話をいました。

濱部長の熱のこもった話に生徒達は真剣な眼差しで傾聴していました。今回の授業により「平和の尊さ」と「命の大しさ」について、考えるきっかけにしていただければ幸いです。



十一月六日（木）、勝浦町立生比奈小学校の六年生の児童と先生の総勢二十名が、昨年に引き続き平和学習の一環として徳島県戦没者記念館に来館しました。

始めに、遺族会事務局から先の大戦の概要を説明した後、濱県女性部長

が「きくさんの沖縄戦」の紙芝居の上演と講話を行いました。子ども達は演部長の熱のこもった話に耳を傾けるとともに、わからないことや疑問点について質問をしていました。

その後、記念館の見学を行い、約八千二百名と

いう英靈の遺影を見て、「地元勝浦町にも戦没者が数多くいること」や「自分たちとそんなに年齢の変わらない戦没者がいること」を知り、驚きを隠せない表情でした。また、パネルや遺品などを見て、メモを取るなど熱心に見学していました。

**勝浦町立生比奈小学校が  
校外学習で記念館来館**

令和七年度

## 支部事務局長・職員研修会の開催



十月二十九日（水）に、  
徳島市のホテルサンシャイン  
で開催されました。

研修会は、日本遺族会水  
落会長からの挨拶の後、日  
本遺族会主催（日  
事務局長・職員研修会（日  
本遺族会主催）が開催され

ました。

本遺族会担当者から「平和  
の語り部事業」、「国内民間  
建立慰靈碑調査」に関する  
事務処理の方法、注  
意点などについて説  
明があり、各支部職  
員との討議が行われ  
るとともに、各支部  
における「次世代繼  
承の取組み」、「運営  
の課題」などについ  
て、情報交換を行  
ました。

今回の研修会では、事務処理のポイ  
ントを学ぶとともに、普段はほとんど  
交流のない支部事務  
局の職員間による意  
見交換が実現するな  
ど、参加者にとって  
実り多い研修会とな  
りました。

## 青年部

### 「平和の語り部」研修会の開催



青年部「平和の語り部」  
研修会を十二月二十日（土）  
にザ・グランドパレス徳島  
で開催しました。

研修会は、坂千代会長の  
挨拶の後、講師として高知  
県遺族会の黒川真介青年部  
長と中岡美佳青年部副部長

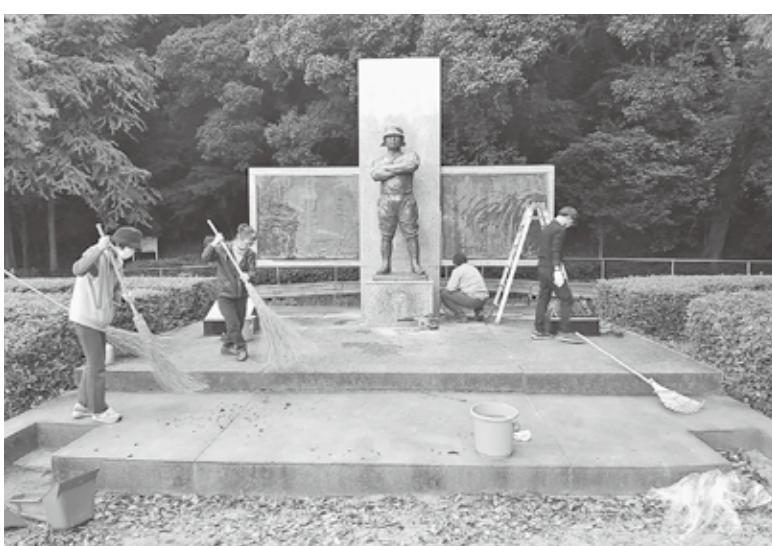
は、先の大戦の記憶や教  
訓を次世代に引き継ぐため若い  
世代との連携を図つてお  
り、事例として「夏場の  
学生ボランティアによる護国神  
社の清掃活動」「戦場からの手紙  
の高校生による朗読・ユーチュ  
ーブでの配信」などが紹介されま  
した。発表後には、徳島県遺族  
会青年部との活  
発な討議も行わ  
れ、参加者にとつ  
て交流を深める  
とともに、大変  
有意義な研修会とな  
りました。

十一月八日（土）、徳島中央公園に建立さ  
れている「父の像」の清掃活動を女性部・青  
年部の参加により実施しました。  
当日は、爽やかな秋晴れに恵まれ「父の像の  
洗浄」、「落ち葉拾い」、「雑草やゴミの除去」  
を実施しました。

今後も、御英靈に感謝し、清掃活動を継続  
していくので女性部・青年部の皆さんのお協  
力をお願いします。

## 女性部・青年部

### 「父の像」清掃活動



# 徳島県遺族会 青年部メンバー募集

戦没者とその時代を学び、平和について一緒に考えましょう

徳島県遺族会は、先の大戦で最愛の肉親を失った悲しみを乗り越え、悲惨な戦争を繰り返さないことを固く誓い、昭和26年（1951年）の創立以来、一貫して平和を求めて活動を続けています。

今後も史実を語り継ぎ、平和な日常を求めていくため、戦没者の孫・ひ孫の世代を中心に「青年部」を発足しています。さらに活動の輪を拡げていくため、メンバーを募集します。

直接のご遺族でなくても参加可能です！！

## 青年部員の声

- ・戦死した祖父の戦跡を始めて知りました。どんなに辛い気持ちで亡くなったのかと思います。祖父のお陰で今の自分たちがいられると感謝の気持ちで一杯です。（40代女性）
- ・戦争は絶対に起こしてはならないと改めて思います。一度始まると終わらせるのは難しい。子どもたちに伝えて行きたいと思います。（40代男性）

## 青年部への登録方法

※登録は無料です。随時、各種行事の案内が届きます。

※参加してみたい行事や活動に無理のない範囲で気軽にご参加ください。

※右記のQRコードを読み取っていただくと、ホームページで概要がわかります。

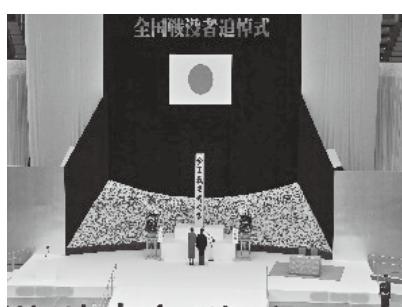


## 活動内容

※全国戦没者追悼式、沖縄「徳島の塔」慰霊祭への参列

※語り部事業、小中学生への平和学習、研修会への参加

※他県遺族会との交流会、徳島県護国神社祭事（例大祭）への参列など



全国戦没者追悼式



沖縄「徳島の塔」慰霊祭



平和の語り部研修会

お問合せは、お気軽に徳島県遺族会事務局まで ☎ 088-636-3212

# 春の靖国神社参拝団千羽づる奉納旅行の実施について

今年度も春の靖国神社参拝団を募集します。

今回も、昨年に引き続き2泊3日で靖国神社正式参拝をはじめ、「富士山・河口湖の絶景巡り」、「お花見屋形船（隅田川）」等の行程を予定しております。

多数のご参加をお待ちしております。

## 6行程

### 1 実施予定日

令和8年3月30日(月)～4月1日(水)

### 2 主な行先

靖国神社正式参拝、東京都都庁展望室、柴又帝釈天、大石公園、河口湖、富士山パノラマロープウェイ、山梨県護国神社、お花見屋形船など

### 3 旅行代金

130,000円

(1日目：2名1室利用、2日目：4名1室利用)  
※シングルルーム等を希望する場合は、追加料金が必要

### 4 募集人員

40名（最少催行人員25名）

### 5 募集締切

令和8年1月23日(金)

※ただし、満員になり次第に締切とします。

時 間 (曜)	行 程
1 3/30 (月)	出発 徳島空港 → JAL454 羽田空港 = 靖国神社(昇殿参拝・昼食) = 東京都都庁展望室 = 記念撮影後、ご参拝 9:00 10:10/10:45 11:30 13:50 14:10 14:50 東京の桜を車窓よりご見学 老舗の和菓子店やお土産物店が並ぶ 柴又帝釈天および参道散策 = 東京都内(泊) 15:50 16:50 17:45
2 3/31 (火)	出発 ホテル = 外苑IC = 談合坂SA = 河口湖IC = 大石公園 = 富士山と河口湖の絶景を 8:30 9:40/9:55 10:40 11:40 休憩 = 河口湖(昼食) = 富士山パノラマロープウェイ = 山梨県護国神社 = 千羽づる奉納 11:55 12:50 12:55 14:00 15:00 16:00 眼前に広がる富士山の大パノラマ 有名な「桔梗屋」の施設 = 桔梗信玄餅工場テーマパーク = 石和温泉(泊) 16:30 17:00 17:10
3 4/1 (水)	出発 ホテル = 一宮御坂IC = 石川PA = 室町IC = 休憩 8:30 9:35/9:50 貸切船にて船上から桜をご見学(昼食) ※越中島乗船発着 = お花見屋形船乗船(スカイツリー・橋めぐり周遊コース) = 羽田空港 → JAL461 徳島空港 10:40頃/11:00出航 13:30/13:40 14:10/15:40 16:55

注) 上記の行程は、事情により内容を変更する場合があります。

会報の次回発行は、  
令和8年4月号です

本会の会報は、年4回（1月・4月・7月・10月）に発行します。

### 令和七年十月～十二月実施行事

### 令和八年一月～三月行事予定

### 遺族会の動き

(十一月)	29 30 日	日遺 事務局長・事務局職員研修会(ホテルサンシャイン徳島)
(十二月)	2 日	例大祭、終戦八十年臨時奉幣大祭(護国神社)
(二月)	8 日	正副会長会(護国神社)
(二月)	8 日	語り部事業(戦没者記念館)
(二月)	14 15 日	父の像清掃(徳島中央公園)
(二月)	14 15 日	沖縄「徳島の塔」慰靈巡拝(糸満市ほか)
(二月)	25 日	日遺・理事会(九段会館テラス)
(三月)	14 15 日	正副会長会、記念館企画運営委員会(護国神社)
(三月)	22 日	語り部事業(戦没者記念館)
(三月)	30 日	春の靖国神社参拝団・千羽づる奉納旅行(東京都・山梨県)